

分子研シンポジウム2017

担当教員 2017年度担当教員

総研大物理科学研究科機能分子科学専攻 准教授 榎山 儀恵

平成29年6月2日（金）に、岡崎コンファレンスセンター小会議室において、分子研シンポジウム2017を開催しました。本シンポジウムは、分子研オープンキャンパスの前日に開催することが恒例となっています。オープンキャンパス参加者や所内の学生、研究者にとって、計算・光・電子・材料・生物・触媒など、各分野でご活躍の分子研OB・OGの先生方のご講演を拝聴できる絶好の機会となっています。分子科学研究所の主要な行事のひとつです。平成19年から始まり、本年は11回目の開催となりました。

今年度、分子研シンポジウムでご講演いただいた先生方のご芳名と講演題目は以下のとおりです（講演順に記載）。伏谷瑞穂先生（名古屋大学講師）「極紫外自由電子レーザーで探る超高

速原子分子過程」、菅原正先生（神奈川大学教授、東京大学名誉教授）「分子システムとして作る人工細胞」、櫻井英博先生（大阪大学教授）「 π 造形科学との出会い」、永田央先生（名城大学教授）「光成型物質変換の開発：現状と今後の展望」、美齊津文典先生（東北大学教授）「気相クラスター・ナノ粒子のイオンの構造と反応を探索」。参加登録者は所外55名でした。当日は、所内からも、多くの皆様にご参加いただき、小会議室は満席となりました。また、本年度は、川合所長からのご紹介で、岡崎訪問中の総合研究大学院大学長谷川眞理子学長、永田敬副学長もご参加くださいました。講演では、研究のお話に加え、各講師の先生と分子研との関わりが紹介されました。随所で分子研や総研大への愛着が感じら

れ、私たちにとっても大変励まされる内容でした。講演会の後は、中会議室に移動して、シンポジウム参加者と所内の学生、研究者の交流を深めるための懇親会を行いました。講演していただいた先生、所外の参加者、総研大学長長谷川先生、副学長永田先生、所内の教員、学生が交流する貴重な機会となりました。今回のシンポジウムを通じて、参加者の皆さんには、分子科学の多様性と、その基礎を支えている分子研の存在を感じていただけたものと思います。お忙しい中、ご講演いただいた講師の先生方、ご協力いただきましたPIの先生方、スタッフの方々にこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

分子研オープンキャンパス2017

担当教員 2017年度担当教員

総研大物理科学研究科構造分子科学専攻 准教授 田中 清尚

2017年6月3日（土）、岡崎コンファレンスセンターにおいて、分子研オープンキャンパス2017が開催されました。本事業は、他大学の学部学生、大学院生および若手研究者らに分子研の研究環境や設備、大学院教育、研究者養成などの活動を知ってもらい、分子研や総研大への理解を深めてもらうことを目的としています。9時30分より、川合所長による分子研の概要説明、山本教授による総研大の概要説明が行われた後、7名の分子研PI（榎山、山本、小林、正岡、飯野（代理で中村助教）、

古賀、田中（発表順、敬称略））による研究室紹介が行われました。昼食の後、13時から16時までの間、明大寺・山手の両地区の各グループの研究室を自由に見学してもらいました。本年度の参加者は60名であり、昨年度とほぼ同数でした。昨年度より本事業後のアンケートの回収に力を入れており、回収率が大きく改善しました。アンケートによると分子研や総研大についてあまり知らなかった参加者が多く、指導教官の紹介による参加者が約半数に上ることがわかりました。また宣伝

のため製作しているポスターも重要であることがわかりました。前日の分子研シンポジウムと合わせて好評なことから、本事業は分子研・総研大の認知度の向上に効果的と考えられます。分子研PIの皆様には来年度以降も知合いの先生方への案内や、研究室紹介への積極的な参加などご協力頂ければ幸いです。最後に、本事業にご協力頂いた全ての関係者の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。